

広島県の地震

2024（令和6）年11月

目次

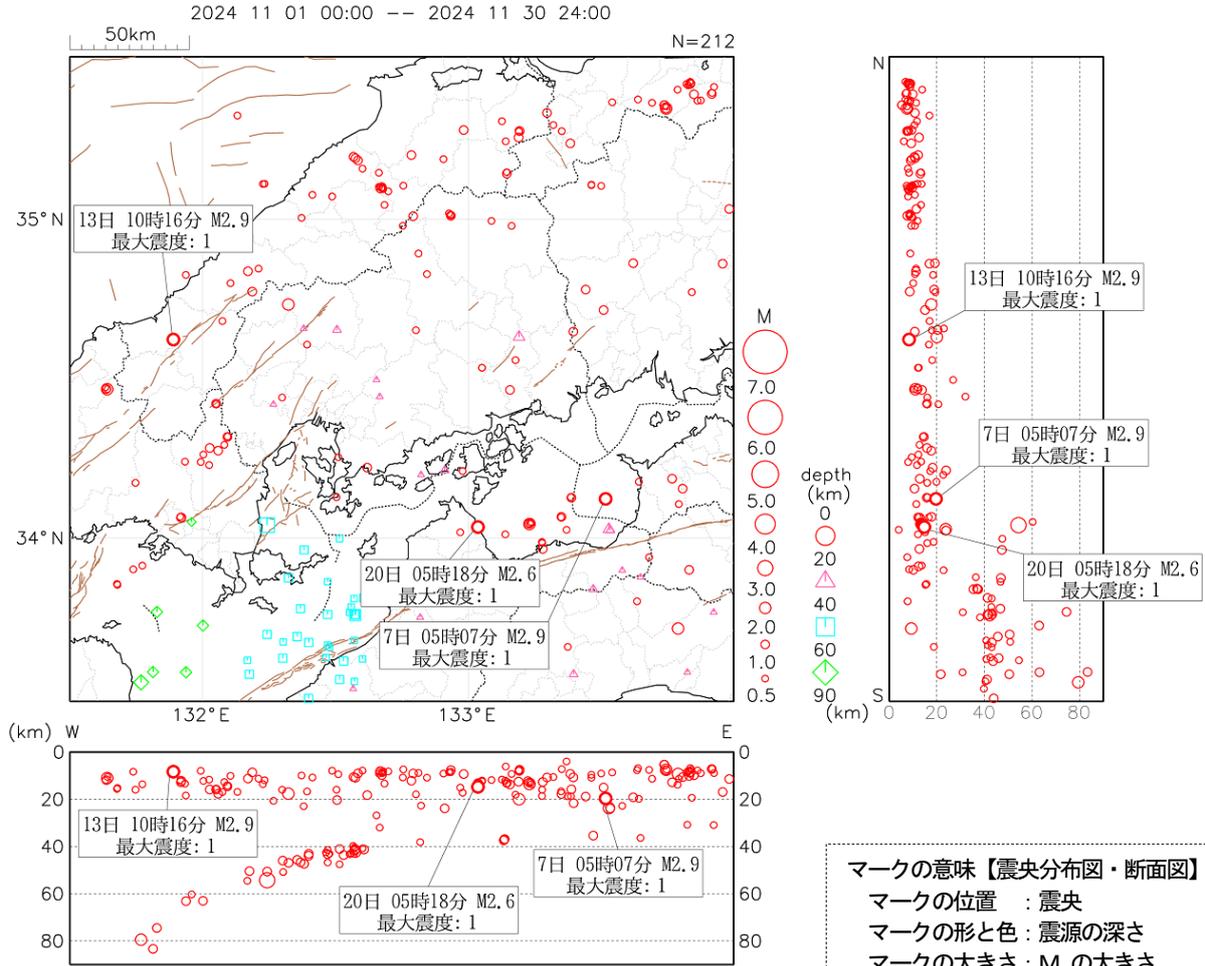
広島県及びその周辺の地震活動……………	1
震央分布図・断面図と地震概況	
広島県における震度1以上の地震……………	2
震度一覧表と震度分布図	
地震メモ 第241回……………	4
阪神・淡路大震災から30年	

広島地方気象台

広島県及びその周辺の地震活動

【震央分布図・断面図】

2024年11月1日～11月30日



左上：震央分布図 右上：南北断面図 左下：東西断面図

- ※ 震央分布図とは、震源直上の地表面での位置を表示した図です（震源とは地球内部で岩石破壊が始まった地点で、一般的には深さがあります）。
- ※ 図中の茶線は地震調査研究推進本部 による活断層を表しています。
- ※ 図の右上の” N ” は図の範囲内における地震の回数です。

マークの意味【震央分布図・断面図】

- マークの位置：震央
- マークの形と色：震源の深さ
- マークの大きさ：M の大きさ

※ Mは地震の規模を示すマグニチュードの略です。

凡例 (depth)【震央分布図】

- は深さ 0～20 km未満
- △ は深さ 20～40 km未満
- は深さ 40～60 km未満
- ◇ は深さ 60～90 km未満

【地震概況】

この期間、広島県内で震度1以上を観測した地震は2回でした（先月は6回）。

17日21時16分 奄美大島北東沖の地震（深さ80km、M5.9、上図の範囲外）により、鹿児島県奄美市で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。

26日22時47分 石川県西方沖の地震（深さ7km、M6.6、上図の範囲外）と26日22時48分 石川県西方沖の地震（深さ3km、M5.0、上図の範囲外）により、石川県輪島市・志賀町で震度5弱を観測したほか、東北から中国・四国地方にかけて震度4～1を観測しました。

広島県における震度 1 以上の地震

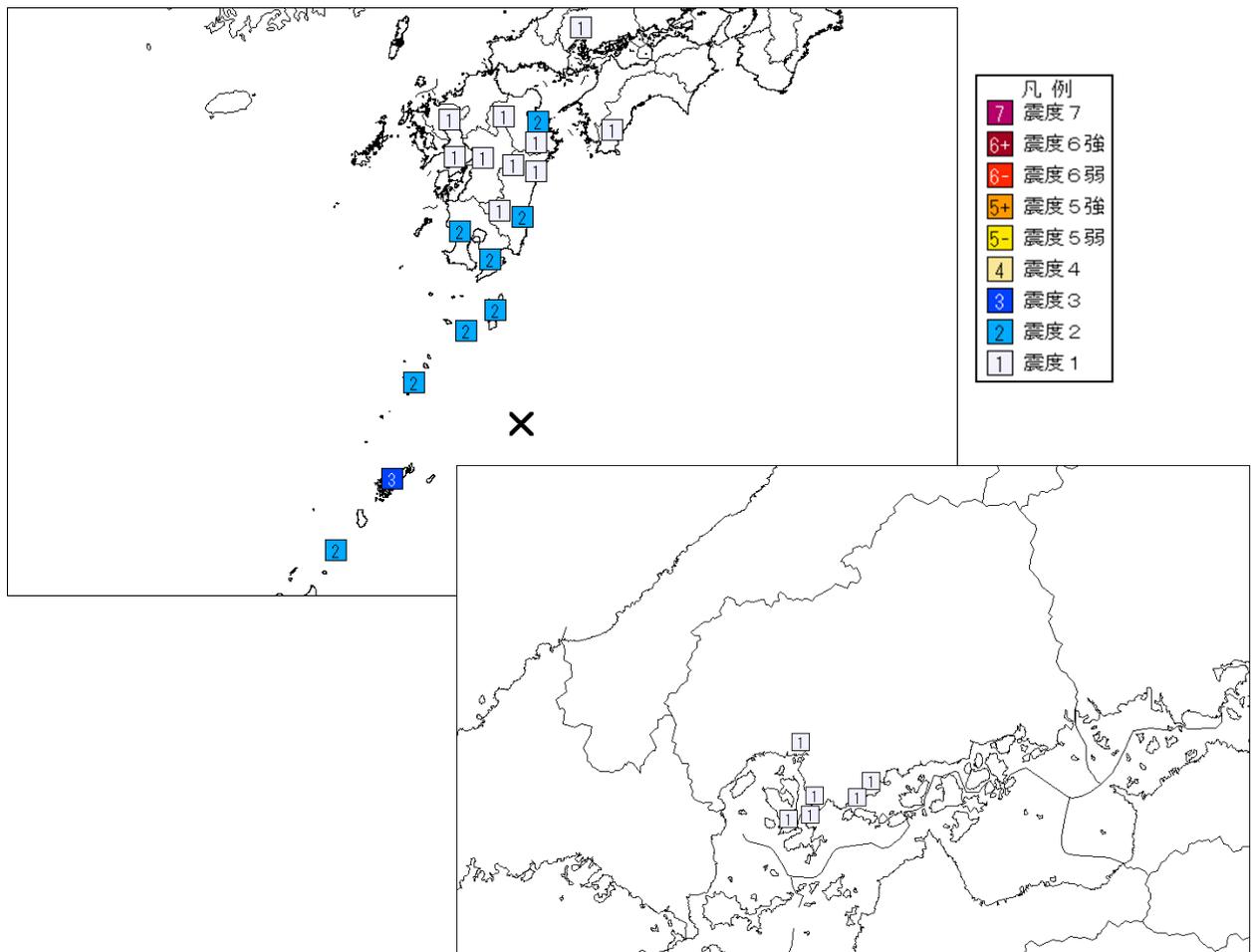
【震度一覧表】

発震時刻（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	M
広島県内の各地の震度					
2024年11月17日21時16分	奄美大島北東沖	29° 03.8' N	131° 21.0' E	80km	M5.9
————— 地点震度 —————					
広島県 震度 1： 呉市宝町, 呉市川尻町*, 呉市音戸町*, 呉市安浦町*, 府中町大通り* 江田島市大柿町*					
2024年11月26日22時47分	石川県西方沖	37° 00.5' N	136° 23.8' E	7km	M6.6
2024年11月26日22時48分	石川県西方沖	37° 00.3' N	136° 25.8' E	3km	M5.0
————— 地点震度 —————					
広島県 震度 2： 呉市広* 震度 1： 呉市宝町, 府中町大通り*, 江田島市能美町*, 竹原市中央*					

注) 震度の地名に*印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

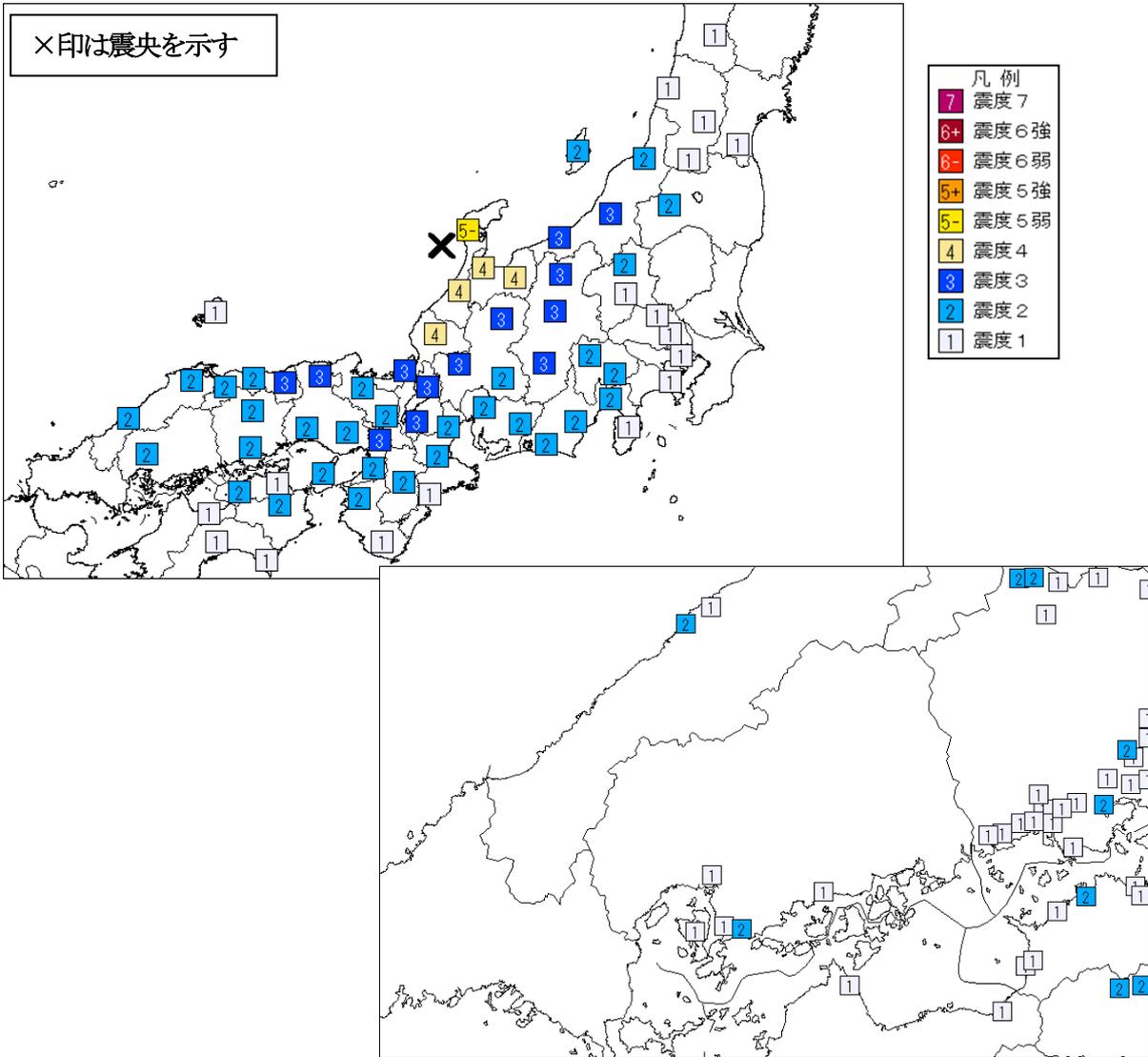
注) 震源が複数記載されている地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないものです。

【震度分布図】



2024年11月17日21時16分 奄美大島北東沖の地震の地域震度分布図 (左)

奄美大島北東沖の地震の観測点震度分布図 (右)



2024年11月26日22時47～48分 石川県西方沖の地震の地域震度分布図（左）

石川県西方沖の地震の観測点震度分布図（右）

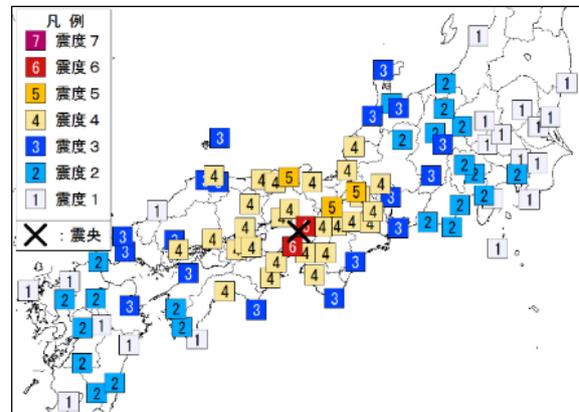
阪神・淡路大震災（平成7年（1995年）兵庫県南部地震）から、令和7年1月17日で30年となります。この地震（マグニチュード7.3）では神戸と洲本で震度6を観測し、その後の気象庁の現地調査により、神戸市等の阪神淡路島地域では震度7に達していたことが明らかになりました。

この地震は都市部で発生した直下型の地震で、総務省消防庁の統計によると死者は6,434名、10万棟を超える建物が全壊するなど地震のゆれによる被害としては戦後最大となりました。また、我が国の地震防災対策に関する多くの課題が浮き彫りとなり、それと同時に、その後の社会の仕組みが大きく変わるきっかけとなりました。

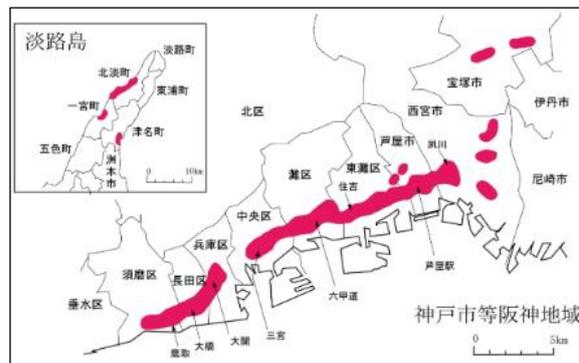
平成7年6月、政府は国の責任で地震の調査研究を一元的に行うため「地震調査研究推進本部」を設置しました。気象庁では体感による震度の観測から計測震度計による観測方法を見直すことにより、震度7まで自動観測できるようしました。また、自治体でも独自に計測震度計を設置し、自らの初動防災対応に活用するようになりました。その結果、震度観測点の数は以前の約300箇所から約4,400箇所まで増え、それら大量のデータを気象庁が一元的にリアルタイムに取込むことで、きめ細かい震度情報を発表できるようになりました。当時の観測網の拡充が、後に緊急地震速報が実現化するなど、技術の発展に伴う防災対策の高度化に繋がっています。

我が国の建築にも大きく影響を与えました。犠牲者の大半が建物の倒壊によるものであり、耐震基準が大きく見直されました。国民の意識も大きく変化しました。被害を受けた地域では住民が互いに助け合い、全国からも救助や支援に多くの方が関わり、後にボランティア元年とも呼ばれています。

地震など自然現象は、人間の力ではくい止めることはできませんが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。それを「公助」が支援します。平時から、自分や家族、地域でできることを考え、いつくるかわからない災害に備えておくことが大切です。



地震による観測点震度分布図



現地調査による震度7の分布

◆ 気象庁ホームページ > 「阪神・淡路大震災」特設サイト

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/1995_01_17_hyogonambu/index.html

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先

〒730 - 0012

広島市中区上八丁堀 6 - 30 広島合同庁舎 4 号館 14 階

広島地方気象台 防災管理官室 TEL : 082 - 223 - 3965